

福岡ソフトバンクホークス  
ファーム本拠地残留に関する要望

平成25年9月6日

福岡商工会議所

会頭 末吉紀雄

福岡の地元球団「ホークス」は、「ライオンズ」移転後空白の10年を経て、市民が熱望し誕生したプロ野球チームであります。誘致にあたっては、1986年に福岡青年会議所が声をあげたのに続き、福岡市議会において球団誘致推進が決議され、また、5万人の会員を目標に「市民球団誘致市民会議」が設立され、50万人の署名活動を行うなど、福岡市民をあげて熱烈な活動が展開されました。このような経緯を経て1989年、地元球団「ホークス」が誕生いたしました。

以来、四半世紀にわたって、福岡市とともに成長し、リーグ優勝5回、日本一3回の実績を有し、ヤフオク！ドームに毎試合多くの観客が集まり、12球団中、巨人、阪神に次ぐ3位の動員数を誇る、人気・実力ともに兼ね備えた強豪チームとなり、福岡のシンボルの一つとして定着しております。

福岡商工会議所は、この「福岡ソフトバンクホークス」の存在が、集客による消費活動や雇用の創出などの経済的効果はもとより、地域の繋がり、街の知名度やイメージアップなど、地域の活性化に大きく寄与することから、市民とともにあらゆる機会を捉えて応援しております。

私は、2011年の日本一奪還時には、福岡商工会議所会頭として、優勝祝賀パレード実行委員会会長も務めさせていただき、それらの効果を改めて実感したところであります。

この度、新たなファーム本拠地の設置に向けた用地募集が公表され、福岡市内にある雁の巣球場などからの移転が検討されており、福岡商工会議所としては大変驚いております。

ファーム本拠地が福岡市内にあることは、ヤフオク！ドームに近く、選手の育成環境としては最も望ましいことでもあります。また、市民にとっては、1軍とはまた違う、若い選手たちの育つ姿を見ることで、プロ野球をより身近に感じられ、ホークスへの親しみと誇りになっております。

さらに、福岡市においても、都市の成長として、観光・集客・MICE誘致に精力的に取り組まれており、エンターテインメントや集客の視点からも「福岡ソフトバンクホークス」の存在は、非常に大きいと考えております。地域経済の活性化と地域発展のためには、これまでのように、ホークスと福岡市が密接に連携・協力していくべきであります。

ついては、福岡市におかれましては、適切な用地を確保し、ファーム本拠地の市内残留に向けて積極的に取り組まれ、是非とも残留が実現されますよう強く要望いたします。